

蠟梅 Now

12月に入って、蠟梅はすっかり落葉し、奇妙な形をした秋枯れの果実が目を引き中、小さな花芽が多数見られるようになった。それが年末になると一斉に花芽を膨らませ、そこそこで黄金色の花びらが顔を覗かせるようになった。暖冬の今シーズンは開花が早いのかな？と思いつつ、年が明けて様子を観にいくと、なんともう開花が始まっていた。昨シーズンは一ヶ月程度早い開花であったが、それよりさらに早い開花となった。



膨らんできた蕾 06年12月22日

花のある植物が少ない冬、春を告げるかのように新年とともに開花するこの花はなんといっても「香り」がいい。フルーティーでゴージャスな、また、気分次第では落ち着いたお香のようでもあり、可憐な花と相俟ってまさに寒さ砂漠のオアシスといったところ。

金蓓春寒鎖：金蓓（きんばい；金の蕾）春寒（しゅんかん）に鎖（とざ）される
人惱香未展：人を悩ます香（こう）の未だ展（の）びず
桃李顔無雖：桃李（とうり）の顔（かんばせ）なしと雖（いえど）も
風味極不浅：風味は極めて浅からず

北宋時代、黄庭堅（1045-1105）が初めて蠟梅を詩に詠い、「一花香十里」を愛せられ、12世紀以降観賞用花木として普及し、日本へは江戸時代の17世紀頃に朝鮮半島を経由して渡来したと言われている。



開花が始まる 07年1月18日

昨年、実生の蠟梅をめざして種を蒔いてみたが、処方が適切でなかったのか、残念ながら発芽に至っていない。次のシーズンには再挑戦してみようと思っている。

《発行者》

特定非営利活動法人 未来技術フォーラム神戸
事務局長 大森 信
〒657-0845 神戸市灘区岩屋中町 4-2-7
TEL & FAX : 050-2014-2293 (IP Phone)
E-mail : info@npo-ftfk.or.jp
URL : <http://www.npo-ftfk.or.jp>